

## 令和5年度 日本血液事業学会事業報告

### ◎会員数 令和5年4月1日現在

A会員	6,351名
B会員	43名
合 計	6,394名

### ◎学会機関誌「血液事業」の発行

第46巻第1号	2023年 5月	6,627部
第46巻第2号	2023年 9月	6,869部 (抄録集)
第46巻第3号	2024年 1月	6,623部
第46巻第4号	2024年 2月	6,622部
合 計		26,741部

### ◎第47回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター

第47回日本血液事業学会総会を令和5年10月3日から5日にかけて、ウインクあいち(愛知県産業労働センター)で開催いたしました。

現地開催を基本としつつ特別企画、特別講演、教育講演を開催した会場ではWebライブ配信も行いました。

善意の血液を、感謝と責任感を持ってお預かりし、惜しめない研鑽と改善を重ねた技術力、そして安全に確実に、製薬メーカーとして唯一無二の供給力で全国の医療を支える、その誇りを持って議論を深めていただきたいとの思いから、総会テーマを「預かる責任、支える誇り」といたしました。

選定した演題の概要は以下のとおりです。

#### 【特別企画】

##### 《ブロック血液センター所長推薦優秀演題》

オリジナル動画を用いた輸血検査の実技指導

北崎 英晃(日本赤十字社北海道ブロック血液センター)

献血WEB 会員サービス「ラブラッド」のイベント機能を活用した「献血協力隊」の取り組みについて

大宮友次郎(宮城県赤十字血液センター)

初流血除去～過量採取防止への取り組み～

北爪 厚子(群馬県赤十字血液センター)

RhD(－)RBC のRhD(＋)患者への転用の推進について

加藤 道(愛知県赤十字血液センター)

献血と輸血をつなぐ

～遠隔支援ロボット「Temi(テミ)」を活用した院内学級との交流実施～

渡 友美(兵庫県赤十字血液センター)

地域MR によるブロック内全県を対象とした輸血検査勉強会

—いつでも・どこでも・何度でも学べる仕組みづくり—

森 唯(鳥取県赤十字血液センター)

供給予測に繋がる情報収集の取り組みについて

小倉 遼馬(宮崎県赤十字血液センター)

《改善活動本部長賞候補演題》

SNS を活用した進化し続ける推進活動～職員満足度向上を目指して～

西田 智博(埼玉県赤十字血液センター)

宿泊行程における業務改善～移動採血車は走るワーケーションルーム～

鈴木 理絵(北海道赤十字血液センター) [改善活動本部長賞]

若年層啓発の新たな試み「聴く献血セミナー」について

國久 理衣(福井県赤十字血液センター)

ワークライフバランス向上のための事業効率の見直し

柳原 詩織(東京都赤十字血液センター)

継続的な全員参加型 5 S 活動の取り組みについて

吉田 浩子(日本赤十字社九州ブロック血液センター)

Office365 の機能を活用した体調不良職員に関する所内伝達のデジタル化

菊池 博也(日本赤十字社北海道ブロック血液センター) [特別賞(継続発展賞)]

移動採血業務ハンドブックの作成

—移動採血現場に関する情報共有促進のための取り組み—

城戸 千聖(福岡県赤十字血液センター)

献血を未来につなぐ～コロナ禍における献血啓発の取り組み～

磯岡 敦美(広島県赤十字血液センター) [特別賞(優秀アイデア賞)]

《血液事業本部・4 部会からの報告》

マネジメント部会報告

中西 英夫(日本赤十字社血液事業本部)

献血者対応部会からの報告

羽藤 高明(愛媛県赤十字血液センター)

医療機関対応部会について

北井 暁子(日本赤十字社血液事業本部)

技術安全対応部会報告 2023 年

佐竹 正博(日本赤十字社血液事業本部)

【特別講演】

特別講演 1 : 企業を取り巻く献血活動の課題

豊島 勉(本田技研工業株式会社)

特別講演 2 : 2040 年の展望～社会保障を中心として～

鈴木 俊彦(日本赤十字社)

特別講演 3 : 千年カルテと電子カルテの未来

吉原 博幸(ライフデータニシアティブ)

特別講演 4 : TV 動物番組ディレクター 大自然を相手に四苦八苦!?

横須賀孝弘(元NHKチーフディレクター)

特別講演5：薬剤師による国際医療救援

—ウクライナ人道危機緊急救援事業での経験から—

仲里泰太郎〔大阪赤十字病院薬剤部(国際医療救援部)〕

特別講演6：カワサキが描く、ロボティクスによるこれからの社会貢献

亀山 篤(川崎重工業株式会社)

### 【教育講演】

教育講演1：トヨタ式改善の考え方

麻生 純男(株式会社豊田自動織機)

教育講演2：「教育」から「献血」を見直す

～若年層献血推進への糸口をともに考える～

川治 秀輝(本巣市教育委員会)

教育講演3：新型コロナウイルスなどの感染症とHLA の関連

徳永 勝士(国立研究開発法人国立国際医療研究センター)

教育講演4：働きやすくやりがいのある職場づくり

大久保清子(一宮研伸大学)

教育講演5：製造所における逸脱・OOS/OOT 管理について

吉川 信(テルモ株式会社富士宮工場)

教育講演6：血液製剤の製造と輸血療法における品質改善

松下 正(名古屋大学医学部附属病院)

教育講演7：大量出血患者の救命を支える輸血医療環境

山本 晃士(埼玉医科大学総合医療センター)

教育講演8：新興・再興感染症の動向とワクチン戦略

中野 貴司(川崎医科大学)

教育講演9：地域血液センターにおける目標設定と達成戦略

杉田 完爾(山梨県赤十字血液センター前所長)

教育講演10：骨髄不全診療の進歩と輸血の役割

中尾 眞二(石川県赤十字血液センター)

教育講演11：我が国における血液安全監視の現状

加藤 栄史(福友病院介護医療院)

教育講演12：造血幹細胞移植の歴史とさい帯血バンクの役割

宮村 耕一(総合犬山中央病院)

教育講演13：小児の輸血療法～在宅輸血の現状と課題～

岩本彰太郎(みえキッズ&ファミリーホームケアクリニック)

### 【シンポジウム】

シンポジウム1：「災害時の血液事業継続」のテーマで4題

シンポジウム2：「抗原陰性血～輸血医療のニーズに応じて～」のテーマで4題

シンポジウム3：「血液製剤を扱うということ～献血者の顔を思い浮かべて～」のテーマで5題

シンポジウム4：「感染症関連検査結果の解析と評価」のテーマで5題

**【ワークショップ】**

ワークショップ1：「血液事業における品質保証体制について

～ GMP 省令の改正を経て～」のテーマで4題

ワークショップ2：「QC 業務の充実～品質管理の重要性を考える～」のテーマで4題

ワークショップ3：「人材の育成と確保」のテーマで4題

ワークショップ4：「看護師の離職防止～魅力ある職場づくり～」のテーマで5題

ワークショップ5：「若年層への献血推進」のテーマで5題

ワークショップ6：「検査通知～献血者とWIN WIN であるために～」のテーマで4題

ワークショップ7：「製造部門の責任～輸血医療を支えるために～」のテーマで4題

ワークショップ8：「交通事故発生「0」を目指して」のテーマで4題

ワークショップ9：「リスクマネジメント～重大事例から得られたもの～」のテーマで5題

ワークショップ10：「献血者への接遇向上を考える」のテーマで4題

一般演題は口演124題、ポスター80題の発表がなされました。

また、共催セミナー9社、展示33社、広告24社、寄付10社の協賛をいただきました。

現地参加者909名(会員790名、非会員119名)、Web参加を含めた総参加者は1,062名でした。

今回の総会が、これから業務に取り組まれていく中で、テーマである「預かる責任、支える誇り」を思い起こしていただける一つのきっかけとなれば幸いです。

参加者の皆様、協賛いただいた企業の皆様、運営にあられた株式会社メッド様、会場を提供頂きました愛知県産業労働センター様、ご支援を頂きました日赤サービス様、そして血液事業本部様、東海北陸ブロック内の各血液センターの職員の皆様に感謝申し上げます。